

委員長の挨拶

John E. Estes、委員長



空間的に正確なデータが必要とされていることについては、話題に事を欠きません。生物の多様性、人口問題、森林伐採、砂漠化、淡水の不足、全てが重要なことです。同じく重要なこととして、私たちが持続可能な開発での経済の成長に向かって進むならば、生態系の健全性、人間の健康、空気の質等が力説されなければなりません。これらの問題をより良く理解しようとするための、調査と応用に基づく研究を現在妨げている主な要因は、世界中の多くの地域で適切な地図が存在しないことです。規模、主題内容、時宜にかなっているかどうか等について、これは、途上国、先進国の両方の世界で共通する事実です。多くの人々は、このことが信じられないでしょう。私たちは、あまりにも、必要な地図は存在し、必要な情報を含み、情報は正確であり、まさしく最新のものであると考えます。このようなデータの利用者は、情報はそれが収集される時には古くなっていること、全く正確なデータを作成するデータ収集プログラムはないこと、そのような情報をもとにする地図は、研究の種類によっては有用性が限られることに往々にして気づいていません。大陸の輪郭に対する森林の完全な伐採など、ある種の地図化された情報は、他に比べてより消滅しやすく、データの価値は、多くの場合にその新しさに関係します。地図作成は、重要で、複雑で、高価で、時間を要する仕事なので、現在、ほとんどの国では受け入れられる様式では行われておらず、地球規模（100万分の1、もしくは1:1 km）では、ほとんどなされていません。世界は“十分に地図化されている”という神話は、私たちが利用する道路地図から私たちが持っているアトラスに至るまで、多くの巧妙な方法で伝えられています。単に、道路地図が人々をある場所からほかの場所に案内するという理由で人々は利用できるからといって、これらの地図が、そのひとが通過する所に農業に向く土地が何エーカーあるかを描いているわけではないでしょう。さらに、道路地図やアトラスは、木材の量について、また、市街地が人口を増加するもしくは減少するスピードについて、情報を一般的に提供しないでしょう。神話はさらに、森林の減少、砂漠の拡大、土壌の生産性の減少、生物の多様性などの地球の体系の様々な部分の状態に関して、ニュース媒体や科学文献などで見聞する資料により伝えられています。例えば1980年にブラジルに何エーカーの熱帯雨林が存在したか私たちは知っているかもしれませんが、しかし、私たちが、計画作成や資源管理の目的で本当に知る必要があるのは、現在の熱帯雨林の面積はどれだけかということです。公表された数値にどのくらいの信頼性があるのでしょうか。現状はどうなっているのでしょうか。実際は、私たちは、多くの場合、本当は解りません。私たちは、個人個人として、地表や沿岸地域について世界中の地理空間情報を必要としていますか。私たちのほとんどは、この種のデータ・情報について独自のそれぞれの必要性について曖昧な態度をとるか、もしくは、このようなデータを私たちにあって興味のある特定の地域について必要とするだけかもしれません。国家はこの種の情報を必要としているのでしょうか。私たちのほとんどはイエスと言うかもしれません。私たちは、この種の情報を持っているのでしょうか。私たちのほとんどはイエスと言うかもしれません。正解は、私たちは、環境計画作成、資源管理、または、公共の政策決定の方法として最高に利用できるような精度とタイミングで国家規模、世界規模の両方で私たちが必要とするタイプの地図データは、現在持っていません。そして、意思決定まで、不適切で不完全なデータをもとにして行われています。このような意思決定の結果は、私たちのまわりの至る所で見ることができます。地球地図が、地球規模の地図作成の網羅範囲をより良くするために、国家地図作成機関を一同に集める役に立つことが、私の希望するところです。そして、地球地図が、公共政策決定者から資源管理者や環境計画作成者に至るまで、また、産業界の労働者から研究科学者、一般の人々に至るまで、地図の重要性についての教育に役立つことを希望します。真に持続可能な将来に向

かつて私たちが働く中で、地図は、私たちの選択肢を評価するために不可欠です。国土地理院、建設省、日本政府には地球地図の事務局を主導し、主催することが託されています。

カリフォルニア大学地理学部リモートセンシング研究部長

ジョン・E・エステス

地球地図ホームページがオープン

地球地図事務局のホームページがインターネット上に開設されましたので、地球地図についての最も新しい情報を入手できます。それぞれの目次の詳細が次のページに掲載されています。ホームページに対する皆様のご意見をお待ちしております。

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www1.gsi-mc.go.jp/iscgm-sec/>

地球地図ホームページの概略

地球地図のホームページが、1996年6月1日に地球地図国際運営委員会(ISCGM)により開設されました。最初のページは、見出しの目次と地球の絵です。絵をクリックすると地球の画像を廻すことができます。

見出しには、“地球地図とは”、“ISCGMとは”とその他の関連のホームページへのリンクがあります。

“地球地図とは”の部分では、地球地図構想とその経緯を国際会議での地球地図に関する勧告と決議とともに概略しています。

“ISCGMとは”の部分では、ISCGM委員長のエステス博士の1996年2月の第1回会合での開会の言葉とともにISCGM活動と情報と地球地図ニュースレターが掲載されています。

他の関連のホームページへのリンクはまだ構築中です。できるだけ多くのホームページへのリンクを確立したいと思います。何か情報がありましたらお知らせ下さい。皆様の提案やご意見はそのための大きな供給源となります。

地球地図研修コースがスタート

日本国国土地理院(GSI)は多くの国際的な活動で活躍しています。例えば、国際協力事業団(JICA)をと
おして発展途上国に技術協力をしています。ほとんどの発展途上国には、正確な環境の状況を描写する正
確な環境地理情報データ(地球規模の地図)は十分にありません。

環境地図コースの概要

期間：1996年6月17日から1996年8月18日まで国土地理院にて。

参加国：バングラデシュ、マレーシア、モロッコ、ネパール、フィリピン、タイ、チュニジア

目的：このコースの終了までに、研修員には以下のことが期待されます。

1. 地球環境政策とその他の行政政策の促進のうえで地球地図の重要性を理解すること。
2. 最近の測量技術、ことに、宇宙測地、数値写真測量、コンピュータによる地図作成についての自己
の知識を向上させること。
3. 上記の技術について自国での利用能力を高めること。
4. 国際協力の意識のなかで地球地図プロジェクトを十分に調整できるようになること。

情報コーナー

会合

間近に行われる行事と会議；“地球地図”関連の国際会議と学術的会合

- 1996年7月9日～19日；オーストリア、ウィーン

ISPRS会議(国際写真測量リモートセンシング学会主催)

- 1997年2月；タイ、バンコック、

国連アジア太平洋地域地図会議(国連主催)

- 1997年6月；米国、ニューヨーク

南北アメリカ地域地図会議(国連主催)

- 1997年6月23日～27日；スウェーデン、ストックホルム

ICAの第18回国際地図会議(ICC'97)

- 1997年6月；米国、ニューヨーク

委員と読者の皆様へ

このニューズレター第2号は、“地球地図”プロジェクトの重要性と必要性を述べることで、情報交換と委員と読者の機関の活動を紹介する場所を提供します。

この号では、国土地理院が提案する地球地図を整備するために有能な人々に研修を行う“環境地図コース”を紹介します。

事務局では、それぞれの地域で皆様が関係する地球地図関連のプロジェクト、作業、研究、また国際会議、学術的会合についての、皆様からの情報を有り難く思います。このニューズレターを通して、委員やその他の方々の間で、地球地図についての理解をさらに深める機会を提供できましたら嬉しく思います。

（連絡先：地球地図国際運営委員会）

電話：（81-298）64-6910

ファックス：（81-298）64-1804もしくは6910

e-mail: iscgmsec@graph.gsi-mc.go.jp

委員の交代の提案

ISCGMの委員のウィリアム・A・ロバートソン氏は、7月1日にニュージーランド・測量土地情報局の局長を退任します。

後任の委員のジョン・A・スピットル氏は、ロバートソン氏により指名され、委員会の承認を待っています。

スピットル氏は、1996年7月に測量土地情報局を引き継いだ新しい国家土地情報機関のニュージーランド土地情報局の地形・水路部長です。

[戻る](#)